

● WINDS CAFE 295 in 原宿 ●

打楽器百花繚乱 VIII

～いつか聞いたうた 全曲演奏会～

2021年7月11日(日)

開場：13時30分

開演：14時

終演予定：16時



春

日本古謡	細川俊夫編曲	Sakura
橋本國彦作曲	森ミドリ編曲	お菓子と娘
滝廉太郎作曲	水野修孝編曲	花
滝廉太郎作曲	山本菜摘編曲	荒城の月
山田耕筰作曲	佐原詩音編曲	この道

夏

わらべうた	今堀拓也編曲	ほたるこい
文部省唱歌	佐原詩音編曲	われは海の子
沖縄県民謡	吉原一憲編曲	ていんさぐぬ花
岩手県民謡	白藤淳一編曲	どどさい節
わらべうた	国枝春恵編曲	わらべうたメドレー
宮城民俗芸能	大畑眞編曲	長谷観世音火伏の虎舞
成田為三作曲	會田瑞樹編曲	浜辺の歌 1943

休憩(15分程度)

幕間狂言

會田瑞樹作曲 踊れ、赤い靴

秋

本居長世作曲	山本純ノ介編曲	残芯の汽車ぼっぼ
文部省唱歌	木下正道編曲	無名の歌
吉田千秋作曲	會田瑞樹編曲	琵琶湖周航の歌
山田耕筰作曲	藪田翔一編曲	赤とんぼ
岡野貞一作曲	會田瑞樹編曲	紅葉
草川信作曲	福嶋頼秀編曲	揺籠の歌～夕焼け小焼け

冬

熊本県民謡	徳永洋明編曲	五木の子守唄
山田耕筰作曲	清道洋一編曲	ペチカ
宮沢賢治作曲	羽根玲夢編曲	星めぐりの記憶
岡野貞一作曲	権代敦彦編曲	ふるさと

Mizuki AITA profile

1988年宮城県仙台市生まれ。日本現代音楽協会主催「競楽IX」第二位入賞と同時にデビュー以降、これまでに300作品以上の新作初演を手がけ「初演魔」の異名をとる打楽器/ヴィブラフォン奏者。第10回JFC作曲賞入選を得て作曲家としてもその頭角を現している。2020年は最新アルバム「いつか聞いたうた ヴィブラフォンで奏でる日本の叙情」発表。レコード芸術特選盤、サライ推薦、その他各紙より絶賛を受けた。B→C 會田瑞樹パーカッションリサイタルは仙台/東京において熱狂の成功をおさめ、NHK-FM 現代の音楽において二週に渡り放送。ヴィブラフォン、現代作品の魅力多彩に紹介したヴィブラフォンソロリサイタル in OSAKA の成果により令和2年度大阪文化祭奨励賞受賞。郡山女子大学短期大学部非常勤講師。2021年よりかなっくホールレジデントアーティスト。

# 會田瑞樹の日記帳より 一過去

(注記：本原稿は2020年3月26日より執筆を開始する。)

2020年2月15日、大阪、ザ・フェニックスホールでのリサイタルを終え、一週間の大阪滞在を終えた私は新幹線で東京へと戻った。この時点で帰りの新幹線は驚くほどの空席が目立ち、とりわけ海外からの来訪者が極端に減ったことを感じた。その一方、大阪滞在中には数多くの外国人観光客も見かけたので新幹線の状況からは一概に語ることはできない。

ただ、この時点でまず3月20日に依頼されていた国際木材学会の公演は中止の連絡が入っていた。国際シンポジウムの観点からの中止判断であった。また一週間のスケジュールが過密だったのでその頃のニュースは朝支度をしながら観るにすぎなかったがこの時点で新型コロナウイルス(Covid-19)の名称で報道は多数為され、肺炎で死去した老婦人の死後の調べで新型コロナウイルスを保有していたことが報道されたのがこの周辺である。

帰京後もいくつかの合わせ、北海道で学んでいる弟子へのレッスン、チェリスト山澤慧さんのB→Cリサイタル(2020.2.18)を鑑賞。しかしこの周辺から、公演を見合わせたいという問い合わせをいくつか受け、先延ばしにするなどの予定調和が始まった。ただ、その時に問い合わせがあった公演は「ワークショップ」「子どもとの作業」などなど、演奏以外の様々なふれあいの場も多いという観点からの延期計画であった。

その週末に仙台から旧友が上京し一献傾けた。彼は放射線を専門とする医師であり、この状況について静観するよりほかはないという会話を交わした。東京駅周辺の中華料理店で土曜日だったためか客足はまばらではあったが別段これといった変化はなかった。

一転したのは2月26日以降の、政府の方針の変化であった。休校措置の要請によっていくつかのオーケストラが公演の中止を判断。この時2月28日にはアンサンブル・ノマドの公演が予定されており、その動向に注目が集まり、作曲家の坂田直樹さんとも頻りにメールをやりとりした。公演は開催され、熱狂的な盛り上がりを見せた。会場内はいつもより温度が高く、一曲ごとにステージ大転換があるため、頻りに換気をしていた。また音楽監督佐藤紀雄先生が曲頭に、「この演奏会は収録し、CD化を予定しているのでもノイズ等へのご配慮を。」と軽妙洒脱に語り、場の空気を和ませていた。演奏は白熱したものであった。

しかし演奏会の熱狂とは裏腹に、翌日からの小生の予定は総崩れになった。予定されていた三月中の公演は次々と延期、中止の連絡が入った。さらにはご招待をいただいていたB→C松木きやさんリサイタルの中止連絡は人ごとではなかった。B→Cはリレーのバトンを繋いでいくような感覚にあったのだ。この一週間で状況が激変してしまった。(中略)

2020年4月21日、火曜日。

もし、描かれたはずの未来であれば、こんな安いワインを飲みながら、ワープロに向き合うことなんてなかった。自分自身の一つの集大成、とかなんとか言って、意気込んでいるに違いない自分を見つめているような感じだ。

この数ヶ月、本番直前の舞台裏、重要局面での会議の寸前…そういう夢をたくさん見た。そして舞台に出るあと一歩、会議が始まる間際に目がさめる。そしてこの現実を自分の汗が滲み出ている枕の香りとともに迎えて、今自分がどこに立っているのかをぼんやりと思い浮かべ、浅い眠りを打ち消すかのようにもう一度眠りにつく…(中略)

2020年5月4日

ポートレート25番まで達成。

魚の三枚おろし、体得。

チェスの勉強を始める。

お料理特集がはっきり言って人気。ポートレートより人気。

フリーランスへの給付金の申請始まる。

仙台より連絡、11月27日、28日にパトナシアターの予約が完了する。

これによってB→C公演は11月28日仙台、30日東京という構図が新たに定まる。(中略)

ある意味、芸術をやるというのは後ろ暗さがあるという時代に戻ったのだから、徹底的に隠秘にやってみよう。猥雑な、見世物の復権だ。背徳感を覚えながら、それでも覗きたい。芸術とはそんな側面もある。ロックコンサートは、不良の行くところだ。そんな時代に近いのではないか。

何を奏でていくか。まあ、大筋は決まってきた。イメージがある。

誰か会いたい人はいるか？

心にときめきを、求めているか？(中略)

さて、僕は。

限界まで音楽活動をしよう。思った通り、自由に芸術活動ができるのはあと数年だと思う。それは経済的なものではなく、社会が、強固ななにかをさらに「要請」し、人々はそれに従って「自粛」をするからだ。いずれ公演をしているところに、私服警察や私権警察が乗り込んでくる可能性もあるだろう。

限界ギリギリまで探る。

しかし思えば、2019年という、飽和してしまった世の中に、2020年はこうして回答してくることを思うと、それにしても世界はよくできている。

よく言えば、僕たちの時代だ。僕たちがどう、強く生き、そしてここに新しい何かを見出す、死ぬ気で爪痕を残す、燃えるように生きること。きっと八村さんや末吉先生はその結果がどんなものになるのか、見守ってくださっているはずだ。彼らがそうであったように、燃えるように生きる。

水野修孝先生はミニオペレッタを完成させて、自作のフィードバックをされていた。相変わらずかっこいい。そして燃えるように僕も生きる。(後略)

## 會田瑞樹よりご挨拶 —現在

---

本日はご来場誠にありがとうございます。

こうして「いつか聞いたうた」は誕生しました。こうして本日、皆様と共に音楽を分かち合える幸せを噛み締めております。どうか最後までごゆっくりお楽しみいただけたら幸いと存じます。

本日は有難う御座いました。

會田瑞樹

## 會田瑞樹によるプログラムノート —未来

---

春

日本古謡 細川俊夫編曲 **Sakura**

「小さなプレゼントです」そんな細川先生のメッセージとともに舞い降りたこの音楽は、いつか聞いたうたの起点となり、循環を呼び起こす振り子のような音楽である。

橋本國彦作曲 森ミドリ編曲 お菓子と娘

欧州に学んだ橋本國彦が残した美しい小品。森ミドリ先生は幼い頃からこの曲を愛唱していた。

滝廉太郎作曲 水野修孝編曲 花

水野修孝先生も学生時代学び舎で歌ったと言うこの作品。まさに鐘を音楽に取り入れる水野先生ならではのオルゴールの世界が広がる。

滝廉太郎作曲 山本菜摘編曲 荒城の月

會田瑞樹の高校の後輩でもある山本菜摘さんには仙台ゆかりのこの作品をとお願いした。

山田耕筰作曲 佐原詩音編曲 この道

お母さんと歩いたこの道をイメージしたい、佐原詩音さんはそう言ってこの楽譜を手渡してくれた。

夏

わらべうた 今堀拓也編曲 ほたるこい

今堀さんの響きは神秘的でありながらどこか優しい。

文部省唱歌 佐原詩音編曲 われは海の子

日本の夏を思い浮かべた時、海の中で今も誰かを待っている人たちのことを思う。

沖縄県民謡 吉原一憲編曲 ていんさぐぬ花

沖縄の音楽は、明るく、そしてどこか痛みを伴う。

岩手県民謡 白藤淳一編曲 どどさい節

田舎歌の勢いの中にある、一抹の寂しさが僕は好きだ。どこか酔った白藤さんを思い出す。

わらべうた 国枝春恵編曲 わらべうたメドレー

国枝節を思い浮かべる元気いっぱい音楽。でもどこかに影を帯びる。

宮城民俗芸能 大畑眞編曲 長谷観世音火伏の虎舞

同郷の大畑眞さんは地域の民謡や口伝歌を新たな芸術に昇華する抜群の手腕を持つ。宮城県に伝わるみずみずしいリズムと掛け声がこだまする。

成田為三作曲 會田瑞樹編曲 浜辺の歌 1943

日本で初めてヴィブラフォンリサイタルを開催した朝吹英一氏の1943年の演奏に触発されて編曲。時代が移り変わるその時、ヴィブラフォンはどう響いたのだろうか。

## 幕間狂言

會田瑞樹作曲

踊れ、赤い靴

「あかいくつはいてたおんなのこ いじんさんにつれられて いっちやった」  
ハマのメリーさんへの追憶に。

## 秋

本居長世作曲 山本純ノ介編曲 残芯の汽車ぼっぼ

収録1週間前を切った時この譜面が来た時はさすがに肝を冷やした。純ノ介先生も焦っていたのかメールの誤字が凄まじく、「テンポ」を「イェンポ」と表記していた。

文部省唱歌 木下正道編曲 無名の歌

「かまくら」の旋律をベースに木下さんが編み出したラブソディ。終結部にごくわずかにその旋律が見え隠れする。

吉田千秋作曲 會田瑞樹編曲 琵琶湖周航の歌

2014年8月11日に逝去した東洋史学者であり、祖父の寺田隆信に捧げる。

山田耕筰作曲 藪田翔一編曲 赤とんぼ

たつの市では夕刻を告げる赤とんぼが流れると言う。藪田さんの郷愁が込められている。

岡野貞一作曲 會田瑞樹編曲 紅葉

中学生の時からこのアレンジのベースは完成していた。ようやく形になった気がしている。

草川信作曲 福嶋頼秀編曲 揺籠の歌～夕焼け小焼け

ゆりかごから、夕焼けに吸い込まれていくかのように。

## 冬

熊本県民謡 徳永洋明編曲 五木の子守唄

山形の祖母はこの曲が好きだった。自分と重なるのかもしれない。先ごろ山形で90歳を迎えた。

山田耕筰作曲 清道洋一編曲 ペチカ

暖炉を囲んだ思い出がこの音楽には刻まれている。

宮沢賢治作曲 羽根玲夢編曲 星めぐりの記憶

デビュー当時からなんども演奏を重ねて来た大切な音楽。

岡野貞一作曲 権代敦彦編曲 ふるさと

「ふるさと」が遠くから響いてくるように、そのまま水底に堕ちて、融解してしまうような。

## What's Next ?

---

2021年7月16日(金)19時開演/東京オペラシティリサイタルホール  
篠原眞 室内楽作品による個展

2021年7月25日(日)15時開演/武蔵小金井宮地楽器小ホール  
語りと音楽の会 ともだちや 2021夏の公演

2021年8月14日(土)昼の部14時30分開演/夜の部18時30分開演/京都文化博物館別館ホール  
アンサンブルさいさい打楽器アンサンブルコンサート vol.2 會田瑞樹氏を迎えて

2021年8月15日(日)14時開演/アートスペース Hase 二条城前  
會田瑞樹ヴィブラフォンソロリサイタル in Kyoto ～いつか聞いたうた～

2021年9月下旬 山形県酒田市土門拳記念館に會田瑞樹がレジデントアーティストとして滞在。

2021年10月30日(土)15時開演/かなつくホール  
會田瑞樹ヴィブラフォンリサイタル 2021 夢幻泡影